

## 編集後記

最近、研究開発の実用化に関わる様々な用語を耳にする機会が多い。技術が発明されてから実用化するための長い道のりを「死の谷 (Valley of Death)」ということは知っていたが、「ダーウィンの海 (Darwinian Sea)」というのもあるらしい。私が正しく理解できているか定かではないが、なんでも適者生存の類推で、開発された技術が市場に受け入れられる競争力を有しているかどうか問題とのこと。「死の谷」のイメージではすべてが情け容赦なく滅びてしまいそうだけれど、「ダーウィンの海」のほうは環境に適した技術の何かは必ず生き残りそうなイメージで救いがある気がする。もっともネットを検索して見ると、ダーウィンの海は死の谷を代替する概念とする解説もあったが、死の谷の先にダーウィンの海が連なっているとするものもあり、戸惑う

ばかりである。

さらに近年話題の「イノベーション」は実は「死の谷」の向こう側にあつて、研究開発側の発明・発見は「イノベーション」か！と発見させられることも多い。

一方、プラズマ・核融合学会の編集委員会では新しいプラズマ応用技術が企画案として議論されることが多く、いつも大変興味深く議論に参加させていただいている。なかでも近年話題の大気圧プラズマ技術の多くに、現在の社会情勢のなかで様々な競合技術との生存競争を勝ち抜き、ダーウィンの海をどんどんと渡っていくことができる力強さを感じている。編集委員会ではそのような企画も数多く検討されており、今後も学会誌にご期待いただけるのではと思う。

(高橋栄一)

### プラズマ・核融合学会役員

会 長	高村 秀一	副 会 長	藤原 正巳	松田慎三郎	常務理事	岡村 昇一 (総務委員長)
理 事	秋山 秀典 尾崎 章 (財務委員長) 佐野 史道 畑山 明聖 森 雅博 (広報委員長)		今井 剛 際本 泰士 (広告委員長) 田中 和夫 (編集委員長) 浜口 智志 (出版委員長) 吉田 善章 藤山 寛		奥野 健二 (プログラム委員長) 佐藤浩之助 (企画委員長) 畠山 力三 本島 修	
監 事	長谷川 満					

### プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 田中和夫 (阪大)  
 エディター 関子秀樹 (九大), 関 昌弘 (RIST), 田中雅慶 (九大), 福山 淳 (京大), 村上匡且 (阪大), 行村 建 (同志社大)  
 編集委員 荒巻光利 (名大院工), 飯塚 哲 (東北大院工), 石黒静児 (核融合研), 岩尾 徹 (武蔵工大), 岩切宏友 (九大応力研), 上田良夫 (阪大院工), 越智義浩 (原子力機構), 片沼伊佐夫 (筑波大プラズマ), 門 信一郎 (東大高温プラズマ), 加藤太治 (核融合研), 北島純男 (東北大院工), 北野勝久 (阪大院工), 小口治久 (産総研), 佐伯紘一 (静大理), 重森啓介 (阪大レーザー研), 洲 亘 (原子力機構), 妹尾和威 (核融合研), 高橋栄一 (産総研), 高山有道 (核融合研), 谷口和成 (京都教育大), 永岡賢一 (核融合研), 長崎百伸 (京大エネ理研), 野崎智洋 (東大院), 平松美根男 (名城大理工), 増崎 貴 (核融合研), 山内有二 (北大院工), 山本 巧 (原子力機構)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

### プラズマ・核融合学会誌第83巻第3号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市中種区内山3丁目1-1 4階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: <http://www.jspf.or.jp/> 定価1,365円(本体1,300円)

印刷 株式会社荒川印刷

2007年(平成19年)3月25日

本誌に掲載された寄稿等の著作権は(社)プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月第1火曜日に開かれています。但し、都合により変更になる場合があります。